

氏名	有 馬 暉 勝
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1322 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	肝疾患における血清糖蛋白 第1編 Serum glycoproteins in the liver disease. VII, Further studies on the properties of desialylated glycoprotein binding activity in particulate fraction of human liver homogenate. （肝疾患における血清糖蛋白, VII, ヒト肝ホモジネー トの不溶性分画における脱シアル酸糖蛋白結合性の性 質の再検討） 第2編 Serum glycoproteins in the liver disease. VIII. Desialylated glycoproteins in the liver cirrhosis. （肝疾患における血清糖蛋白, VIII, 肝硬変症における 脱シアル酸糖蛋白）
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 産賀敏彦 教授 太田善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝疾患における血清脱シアル酸糖蛋白 (SDGP) を定量し, その意義について検討した。また, ヒト肝細胞膜に存在すると考えられている SDGP リセプターの性質についても, 肝ホモジネート不溶性分画をもちいて検討した。SDGP の測定はラット細胞膜分画と $^{125}\text{I}-\alpha_1$ 酸性糖蛋白 の結合を競合阻害する系で行った。肝硬変症の SDGP は他の肝疾患より高値を示し, 非代償期にはさらに増加する傾向がみられた。SDGP は血清アルブミン値と逆相関し, K_{ICG} とも逆相関する傾向があったので, SDGP に影響を与える因子としては肝障害と肝血流量の低下が考えられた。ヒト肝細胞膜分画の調製は極めて困難ではあるが, 肝ホモジネート不溶性分画の蔗糖密度勾配遠心法では, アルカリホスファターゼの局在する分画に SDGP 結合活性がみら

れ，この結合は Ca^{++} 依存性があり，リセプターをノイラミニダーゼ処理するとその活性が失われることからシアル酸が不可欠と考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝疾患における血清糖蛋白について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかったヒト肝ホモジネートの不溶性分画における脱シアル酸糖蛋白結合活性の性質について再検討を行ない，その結合に Ca^{++} とか結合物質のシアル酸の存在が不可欠であるなど，又このものが肝硬変症では他の肝疾患より高値を示すなど重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。